

U.S. M1 Carbine

U.S. M1カービン

Report by Ken Nozawa 図版解説/鈴木健太郎



Cover Photo
U.S. ARMY
© WORLD PHOTO PRESS 2024
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

CONTENTS



006 第70回 **サイゴン物語** Saigon Memories
MACVがいたベトナム戦争「入口から出口まで」[19]

010 **ベトナムを遠く離れて——。**
M21スナイパーライフルWith PVS2 Part 2 文/小倉徹

044 **ベトナムで活動したSAS**

050 **LIFEが語るベトナム戦争**
20世紀アメリカ社会と兵士の顔 文/原克(早稲田大学教授)

SHARK SHOOTER LIVE-FIRE REPORT!
062 **CANiK TTI Combat**
Report by Muneaki Samejima

070 **タナカ・ワークス新製品リポート**
Report by SHOTGUN MARCY
●モデルガン S&W M27
ザ.357マグナム 4インチ HW
●モデルガン S&W M67 コンバット・マスターピース
4インチ ステンレス・フィニッシュ Ver.3

074 **ウエスタンアームズ新製品リポート**
Report by SHOTGUN MARCY
●ボブチャウ・スペシャル ローズウッド・グリップVer.

076 **トイガンニュース**
ウエスタンアームズ
●ベレッタM1934 CBHW Ver.
タナカ・ワークス
●S&W M&P360 .357マグナム HW
●コルト・シングル・アクション・アーミー
2ndジェネレーション
バトン エアソフト
●グロック17 Gen.5 MOS CO2GBB

080 **Militaria Roundup!**
F-3A電熱式スーツと空軍将官用ジャケット

086 **東京マルイ**
MS Li-Poバッテリー
MARUI Safety Lithium-ion
polymer BATTERY特集

月刊 THE グリーンベレー
091 **GREEN BERET**
特殊部隊CIF中隊特集 Part8 解説/DJちゅう

ニッポンのちからこぶ 写真・文/菊池雅之
096 **滑走路復旧訓練**

100 **サバゲ三等兵APS部**
荒唐無稽読切! ライトなろう系ノベル
「江戸幕府鉄砲組百人隊が現代に転生して
APSカップで無双するワケなのだが……」の巻

COMBAT FRONT LINE

- 102 ボスゲリラ&Misanoがゲスト出演!
サバゲイベントリポート2本立て!
- 107 今月の中田焦点!
米軍放出品祭!
Fighting Lord Carrier&OCPフェイスカバー
- 108 新作映画情報「フェラーリ」「潜水艦コマンダンテ
誇り高き決断」「ストレンジ・ウェイ・オブ・ライフ」
- 106 レアミリタリーテクノロジー
- 109 読者プレゼント & CIC
- 110 バックナンバー
- 111 次号予告&奥付



ミリタリースポッター

All-domain Anomaly Resolution Office (AARO)

The interest in unidentified objects, which began with sightings of “flying saucers,” continues to captivate people as these phenomena remain unexplained. The term once known as UFO has now been updated to UAP. Furthermore, these unknown objects are not necessarily flying. Several cases have been captured on video showing objects moving at high speeds underwater. In the United States, the AARO was established in July 2022 to address anomalous phenomena occurring across all domains.

「空飛ぶ円盤」目撃情報から始まった未確認な物体への関心は、現在もお未解明のまま関心を集めている。UFOだった呼び名から、今ではUAPになっている。加えて未知の物体は必ずしも空を飛んではない。海中を高速で動く物体も数例、映像で捕捉されている。アメリカでは、すべての領域で生じる異常現象の解明に取り組むべく、AARO「全領域異常解決局」が2022年7月に設立されている。



海兵隊員が持つM1カービンを物珍しげに見つめるコーストガードの隊員たち。戦闘を主任務としない兵士のメインアームとして開発、採用されたこの銃は海軍やコーストガードにも支給されるようになり、空軍ではM1ガーランドではなく専らM1カービンが用いられた。1944年あるいは1945年 太平洋

WWIIから朝鮮、ベトナムを戦った“小さな巨人”

U.S. M1 Carbine

U.S. M1カービン

M1カービンの射撃を行うアイゼンハワー大將とイギリスのチャーチル首相。アイゼンハワー大將は身長が179cmとかなり大柄な体格だったのだが、それを差し引いてもこの銃がライフルに比べてコンパクトな設計となっているのが良く分かる。M1カービンは第二次大戦においてアメリカ軍に広く用いられただけでなく、イギリス軍でも空挺部隊やコマンド部隊などで使用例がある。1944年 イギリス

“必要”から生まれた銃器ながら米軍史の異端児と評される一挺

銃器の開発は他の多くの工業製品と同じく“使用目的”を最初に定め、それに適した形（機能・性能）とするよう進められる。特に軍用火器はその意識が高いため、複数のメーカーによるトライアル（競争）を繰り返し、同時に軍からの多くの要望を満たしながら完成・採用の道をたどる。銃器は

兵士たちが命をかける道具であり、共に戦う相棒でもあるため、徹底して仕様に注力するのは当然であり自然な判断である。さて、そういった現実・実情があり、世界各国軍で採用されてきた銃器

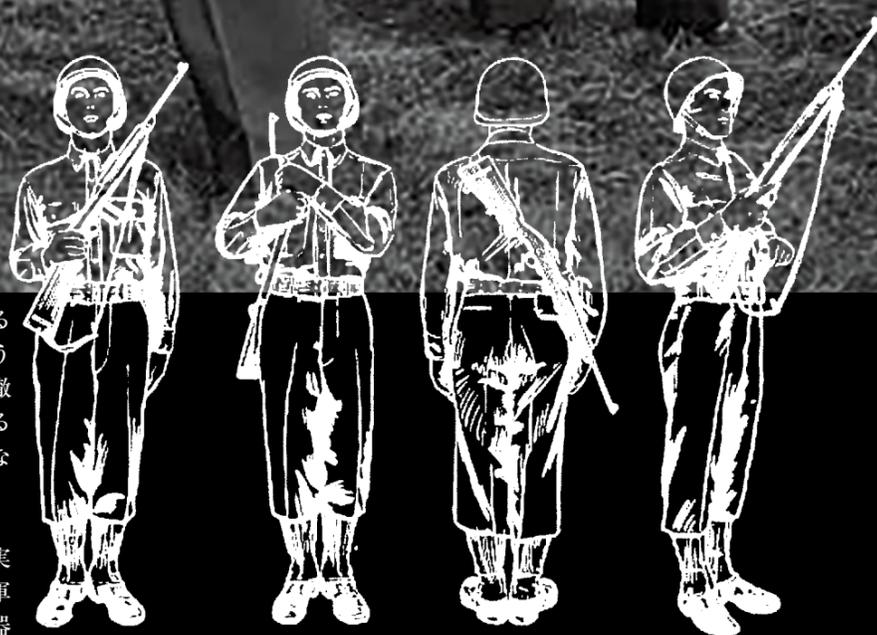


FIGURE 75.—Second movement of PORT ARMS. FIGURE 74.—First movement of PORT ARMS. FIGURE 71.—Carbine slung on the back. FIGURE 77.—First position of INSPECTION ARMS.

「カービン」とは本来騎兵用の短小銃を意味する。戦訓により銃の種類と役割が細分化されていくなかで、アメリカ軍はカービンを全く新しい、そして実用的なカテゴリーへと昇華させた。M1カービンに込められたコンセプトを探ることで、「銃の在り方」はより鮮明となる。

Report by KEN NOZAWA

図版解説 / 鈴木健太郎
U.S.ARM.Y. USMC. USAF. United States Coast Guard. The Swadish Army Museum. WPP Archive

U.S. M1 Carbine



(右) M3カービンを斜め前から捉える。M3カービンはM2カービンをベースとしたタイプもあり、暗視装置を覗きながらのバースト、あるいはフルオート射撃は夜襲を撃退するのに大きな効果をあげた。写真のM3カービンは銃口にフラッシュハイダーが取り付けられている。



では、それら数値の違いが、どういった結果をもたらすのか？
これは一例だが、.30カービン弾は近接戦闘において敵兵を貫通してしまい停止性能を発揮できないという報告があがっている。第二次世界大戦中の戦闘報告書には、敵兵を倒すのに弾丸を複数発命中させる必要があったという記述が見られ、朝鮮戦争での報告では中国兵士の凍った服地が.30カービン弾を止めるという説まで出ていた。

やはり.30カービン弾では威力不足だったのか。
そう感じられるかもしれないが、現在ではそれらの報告は否定されている。近距離からの射撃では貫通力が高く、停止性能を十分に発揮できないことはありえるが、敵兵を倒すのに複数弾の命中が必要であったという報告も、凍った服地が防弾効果を発揮していたという説も、その後の調査とテストから否定されているのだ。
命中していたと前線の兵士は信じていたが実は敵兵には被弾していなかったことも

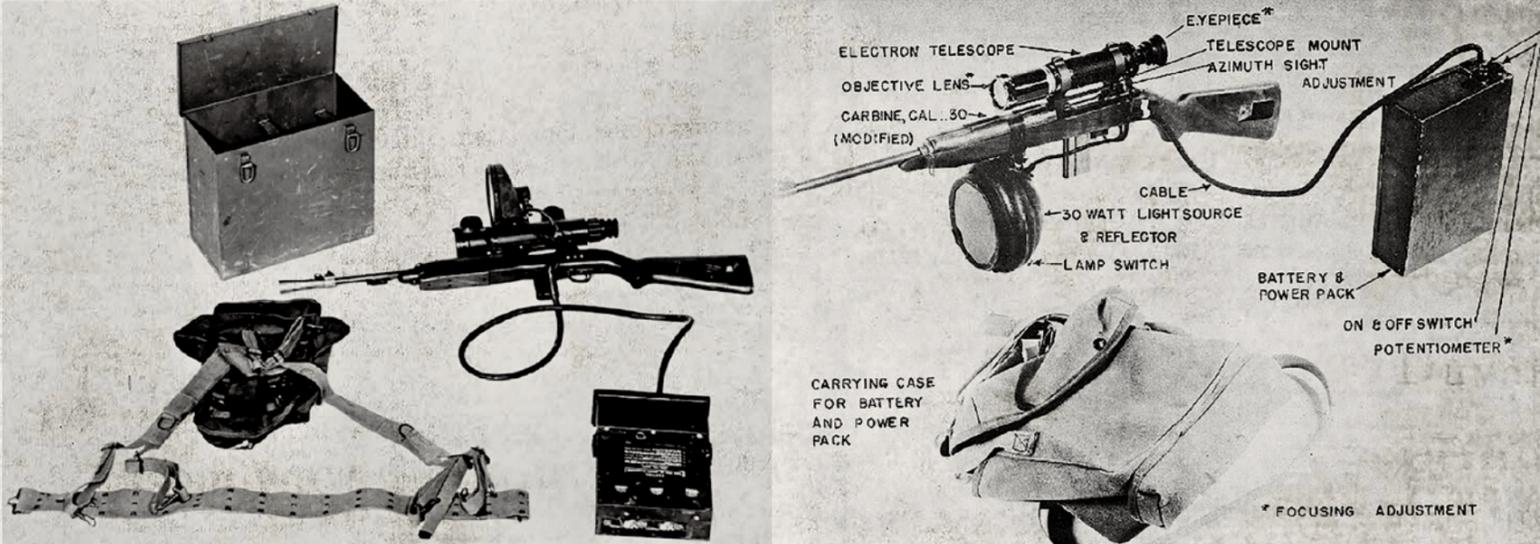
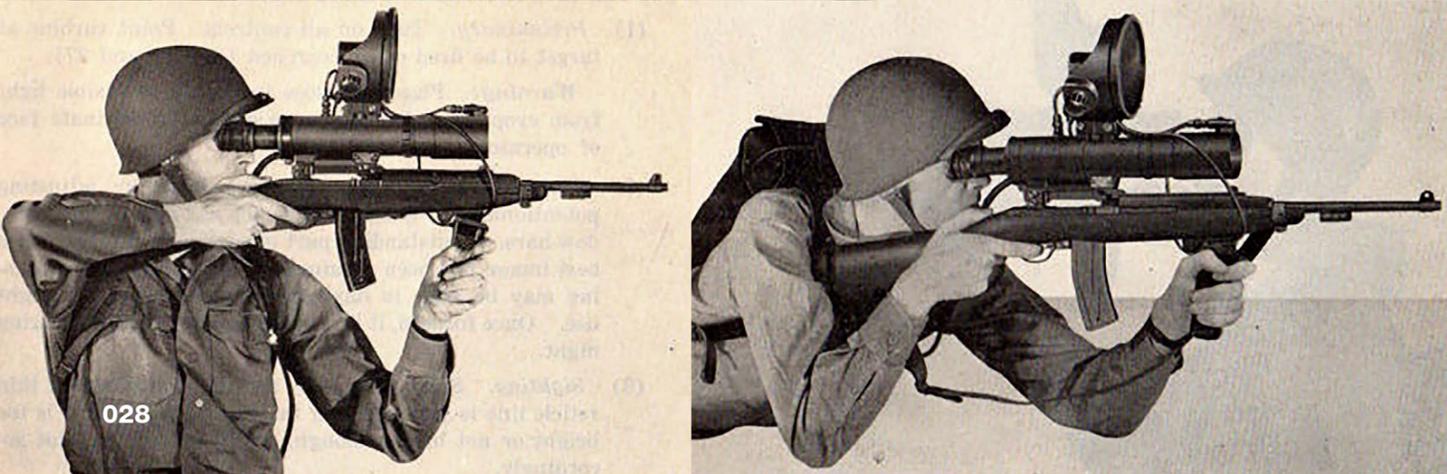
多く、.30カービン弾は1発、もしくは2発で敵兵を倒し、凍った服地も軽々と貫通できるだけの性能を有していたのである。
とはいえ事の真偽の判明は後の研究によってであり、戦闘の現場に身を置く兵士たちからは、“M1カービンは役立つ相棒”の評価と“威力不十分な一挺”の両評価が下されていった。
ここまで話を進めてきて、結局のところM1カービンは有能・有効であったのか？それとも失敗作だったのか？と、根本的な部分の、そして振り出しに戻る疑問が浮かんだミリタリーファン、ガンファンもいると思われる。そこで最後に、.30カービン弾を“攻撃力”の点から見て、有用性の有無を確認したい。
一般的に、戦闘力、攻撃力は「火器性能×兵士数」で表される。高性能の火器ほど有利であり、兵士数が増えることで攻撃力を強化できる。
第二次世界大戦時、M1カービンを鹵獲した旧・日本軍はその小ささを笑った。小さく軽く、見るからに非力であるとバカにしていた。特に.30カービン弾は小型で、アメリカ軍はこんな小さな弾で戦っているのか

と頭からM1カービンを否定しており、威力の低い小さな弾で撃たれても戦意は殺げれないとナメてかかっていた。
その認識が大きくひっくり返された最たる戦闘は硫黄島での戦いであった。
第二次世界大戦末期の1945年2月19日から3月26日にかけて、東京都硫黄島村（現・東京都小笠原村）に属する硫黄島において、アメリカ軍と旧・日本軍の間で行われた戦闘は、アメリカ軍約17万人、旧・日本軍約2万3千人での戦いとなった。兵士数において7倍以上、火力にも大差のあった同戦闘は米国の勝利となったが、そこではM1カービンが活躍した。硫黄島での戦闘は見通しも悪く、必然的に戦闘距離は300m前後、もしくはそれより近距離戦が増えたため、弾丸1発あたりの威力よりも発射速度の高さが戦況を左右することとなったためである。
旧・日本軍の歩兵が主として用いた九九式小銃の発射速度は1分間に15発ほどなのに対し、M1カービンのそれは120発（アメリカ陸軍野戦教範・1943年発行より）に達し

(上) M1暗視装置を付けたM1カービン。この装置は1944年に開発され、暗闇で60m先の人間を捉えることができるようになったが背中にバッテリーバックを背負う必要があり、装置全体の重量は銃本体を除いて約9kgあった。(下) 新型の暗視装置、M3を取り付けたM1カービン。視認できる距離は120mと倍になったが、装置の重量は15kgを超えた。この暗視装置は1950年から1951年にかけて2万個が生産され、改めてM3カービンと呼ばれるようになるのだが、この名称は最初期型を含めた全てのM1カービンと暗視装置のコンビネーションを指す場合も多い。

M2暗視装置を付けたM1カービン。バッテリーバックは鉄製のチェストに保管され、戦地ではM1936個人装備に手を加えて携行する。M2暗視装置はM1の後継として第二次大戦中に開発され、M3の原型となった。

M1暗視装置の全体図。M1暗視装置はスコープマウントを持つM1カービンの改修型、T-3カービンにしか取り付けることが出来なかったため、M2暗視装置以降は通常型にも使用可能な新型マウントが併用されるようになった。M1からM3までの暗視装置は当時は非常に目新しい存在だったためか“ナイトビジョン”という名称はまだ用いられず、“スーパーバースコープ（覗き見スコープ）”と呼ばれていた。



ベトナムで活動したSAS

文／鈴木健太郎 写真／AUSTRALIAN WAR MEMORIAL, WPPアーカイブ

数ある特殊部隊の中でも特に知名度の高いSAS。本家イギリスから受け継いだ技能をベトナムで存分に発揮した2つのSAS、オーストラリアSASとニュージーランドSASをを臨場感たっぷりの当時の写真で振り返ります。



短剣と翼をモチーフとしたSASのエンブレム二種。左が本家イギリス軍とニュージーランド軍、右がオーストラリア軍によって用いられており、どちらもスクロールにはWHO DARES WINS（果敢に挑む者が勝つ）というモットーが記されている。



ハンドシグナルで進路を示すASAS偵察チームのジョン・ケブハルト軍曹。アメリカ軍のERDL迷彩服とローカルメイドの迷彩ブッシュハットを着用しているが、ベトナムで活動したASAS偵察チームの服装はアメリカ軍の偵察部隊とほとんど変わらず、タイガーストライプ迷彩服を着用する者もいた。軍曹の顔と手、そしてオーストラリア軍の制式ライフルであるL1A1にも迷彩が施されているのに注意。サスペンダーの右胸の部分に付けられているのはフィールドドレッシング（包帯）である。

イギリス軍の特殊部隊、SASは第二次大戦時に創設されて以来数々の戦いで目覚ましい活躍をしながらベトナム戦争ではイギリスが参戦しなかったためその活動は見られなかったのだが、この地に軍隊を派遣していたオーストラリア軍とニュージーランド軍には彼らの分家とも言うべきSASが編成されて

おり、それぞれASAS (Australian SAS) とNZSAS (New Zealand SAS) の略称を持つ両SASが持ち前の戦闘技能を駆使して解放戦線と北ベトナム軍に対するゲリラ戦や情報収集などの任務にあたった。特にこの戦争で大きな効果をあげたLRRP (Long Range Reconnaissance Patrol=長距離偵察パ

トロール) においてはアメリカ軍で専門の部隊が続々と新たに編成、投入される中でASASがおよそ1,200回、NZSASがおよそ130回のパトロールをこなした。両SASの戦死者はそれぞれ一人、キルレシオはおよそ500対1と本家のSASに全く引けを取らない働きぶりを見せ、解放戦線と北ベトナム軍からはその生死に

関わらず5,000ドルもの懸賞金がかけられていた。この戦争における両SASの戦力はASASが一個中隊(およそ100人)、NZSASは一個小隊(26人)と非常に少数ながらその活動は南ベトナム軍の訓練からアメリカ軍特殊部隊と合同の極秘作戦まで幅広く、その全容は未だに明らかになっていない。



ASASの兵舎。これらの兵舎はフォックトウイ省ヌイダットにあり、前の高い丘は“SASヒル”と呼ばれていた。



ASASの兵舎のアップ。この兵舎は司令部として用いられており、ボールの足元にはSASのエンブレムをあしらったモニュメントがある。



(上) ヌイダットを訪れた参謀総長トーマス・ダリー中将与SAS隊員。SASのトレードマークであるタンのペレーを被った中央の人物は第3中隊の指揮官、レグ・ビーズリー少佐である。(下) UH-1ヘリコプターに乗り込むASASの偵察チーム。UH-1はオーストラリア空軍第9飛行中隊の所属で、機体を良く見るとROYAL AUSTRALIAN AIR FORCEの頭文字であるRAAFの表記がある。



出撃準備を整えるASASの偵察チーム。ERDL迷彩服に加えて、ジャングルファティークを着用した隊員の姿もある。中央には彼らの武器と荷物がまとめられており、L1A1ライフルとアメリカ軍制式品のM79グレネードランチャーやライトウェイトリュックサックが見えている。



UH-1の機内から地上の様子を窺うジョン・パイル一等兵(左)とケブハルト軍曹。パイル一等兵はXM148グレネードランチャーを取り付けたM16ライフルを持ち、マズルにはプラスチック製のカバーが被せられている。



CANiK TTI Combat

2024のショット・ショーで発表され話題を呼んだCANiKとTTIが企画したコラボレーション・モデル“CANiK TTI Combat”。本誌4月号の「ショット・ショー リポート」内でも紹介したこの1挺を“シャークシューター”こと、鮫島宗貴がいち早くリポート！トップシューターならではの視点で、その実力を徹底検証する——！



CANiK TTI COMBAT
●弾数: 18発 / 21発
●重量: 約836g
●口径: 9×19mm
●価格: 949.99ドル



マガジンはエクステンション付きとノーマル・サイズの2本が付属。エクステンション付きの方は装弾数が3発増える。ノーマルは18発だ。

躍進の銃器メーカー

トルコの銃器メーカー、CANiKの勢いが止まらない。本誌でも同社の製品を特集するのはこの約4年間で3回目。昨年本誌6月号にて紹介した「SFX RIVAL-S」も、僕の撃つ射撃競技であるUSPSAにおいて使用者の数を飛躍的に増やしている。

日本でもその知名度は拡がりつつあるので、本誌読者の中にもCANiKについて知識を持つ人も増えているかもしれない。しかし、日本ではCANiKのモデルは、トイガン化されておらず、まだまだその知名度は、他のブランドと比べて低いのではないかと感じている。なので、ここで改めて同社について簡単に紹介したい。CANiKはトルコに本社とファクトリーを構える銃器メーカーだ。トルコは古くから数多くの銃器メーカーが存在する。CZ系のクローンを製造することで有名なSAR ARMS、ベレ

ッタ、ベネリ等、有名メーカーとも深い関係にある会社がいくつも存在している。ストーガーもトルコにあるメーカーであり、トイガンでも過去に発売されたことのある「ターキー・クーガー」というモデル名に聞き覚えのある人もいるのではないだろうか。“ターキー”はトルコの英語表記だ。トルコの銃器メーカーと聞いた時、大手メーカーのコピー製品やOEM製品を作るメーカーが多いのは事実だが、その品質は侮れない。そして、大手メーカーに劣らない品質を持ちながら驚異的な低価格を実現しているのだから、インフレーションが国民生活を圧迫するアメリカにおいて、そのコストパフォーマンスは、非常に魅力的なのだ。CANiK社の製品も高品質と低価格を実現している。

普段、生活を送る中で我々は“ブランド名”を基準に生活必需品を買うことが多い筈だ。衣類なら著名な

ブランドの製品を手取る人が多いだろうし、食べ物でもCM等で見かけるメーカーのモノを買うことが多いのではないだろうか。CANiK社も同社のブランド名をアメリカの市場で広めるべく2019年頃から動き始める。同年の春、CANiK社はUSPSA/IPSCにおいて、歴代最強選手のひとりとしてその名を知られる世界チャンピオン・シューター、ニルス・ジョナサンとのプロ契約を結んだ。彼とホームレンジが同じであり、年齢も同じニルスは僕も良く知った仲だ。そんなこともあり、CANiKを実際に試合で使う彼の様子を間近で見てきた。彼の手に握られたCANiKの各モデルは、2019年から各メジャー・マッチ、すなわち全米選手権や世界選手権を含めた試合で優勝を含めた上位入賞を数多く達成した。試合という過酷な実戦を通して、CANiKは瞬く間にその名をシューティング界にその名を轟かした。以降、射撃競技

に出ない一般ユーザーからも注目を浴び、低価格と高品質を実現したCANiKの銃を「グロック・キラー」と呼ぶ人たちがまで出現したほどだ。CANiKは、今や多くの人が“低価格と高品質”というイメージを持ち、信頼に値する銃として広く認知されるまでに飛躍したといつて過言ではないだろう。

TTI社との究極のコラボレーション

チャンピオン・シューターを宣伝塔/アドバイザーとして招き、競技から得たフィードバックを製品作りに活かすという市場戦略を取ったCANiKは成長し続けている。ニルス本人の各種SNSはもちろん、彼がCANiKを撃つ姿は多くの人に衝撃を与え、それに感化されたYouTuberやインフルエンサーがこぞって同社の製品を紹介したことも、同社の知名度をさらに広めることになった。

S&W M27

“The.357 Magnum”

4inch HW

●Photos & Text by
SHOTGUN MARCY
@タナカ・ワークス
https://www.tanaka-works.com

※撮影用のモデルはプロトタイプのため、量産品とは仕様異なる場合があります。

MODEL GUN



トイガン用7mmキャップを使用するカートリッジが6発付属。プレットはホロー・ポイント風の.357マグナム・デザインだ。

S&W M27 ザ.357マグナム 4インチ HW (モデルガン)
●全長:235mm ●重量:約750g(カートリッジ6発含む)
●装弾数:6発 ●価格:3万9,380円 ●7月中旬発売予定

S&W初の.357マグナム・リボルバーM27に4インチ・バレルのバリエーションが新登場!

タナカ・ワークスのS&W.357、マグナムNフレーム・シリーズに、4インチ・バレルを備えたM27が新たに追加される。M27はS&Wの要請を受けたウインチェスターが1934年に完成させた新型カートリッジ「.357マグナム」を使用するリボルバー。S&Wの大型Nフレームをベースに、.357(.38スペシャル)マグナム・サイズのシリンダーを組み込んだS&W最初の.357リボルバーだった。開発当初のモデル名は「ザ.357マグナム」。注文生産体制を取り、1挺ごとに登

録ナンバー、仕様、そして所有者の氏名などを明記した登録証付きで納品されたことから「レジスター・モデル」とも呼ばれていた。

フロント・サイトは7種類のタイプから選択することができ、バレル・サイズも3.5インチから8-3/4インチまでを任意に選ぶことができた。バレル・サイズ10インチを超えるスペシャル・オーダーもあったという。フレーム・トップからフロント・サイトまでを結ぶリブ上面とフレームのブリッジ上面には、光の反射を防ぐ

テーパード・バレルにサイト・リブを備えた伝統的なバレル・デザイン。シリンダー・スペースの広い隙間もNフレームをベースにしたM27 (M28) 独特の特徴だ。



1930年代後半に完成され、政府・警察関係の従事者はいまでもなく、一般のユーザーにも注目された「ザ.357マグナム」M27。その堂々たる外観が、正確に再現されている。

ブリッジからサイト・リブまで、上面にシャープなチェックリング加工が施されている。



丁寧に仕上げられたマズルの上に背の高いフロント・サイト。シリンダーから覗くプレットに緊迫感が漲っている。

アメリカの警察用ハイ・プレッシャー・リボルバーを代表するM27 (M28)。その重厚なムードをリアルに再現したタナカのM27、4インチ・バレルをぜひ手にしよう。

スクエア・タイプのチェッカーが刻まれるなど、装備も仕上げも当時のリボルバーファンが憧れるカスタム・クオリティ。

禁酒法が廃止された翌年、1935年に製造された最初の1挺は、同年BOI (捜査局) から改称されたFBI (連邦捜査局) の初代長官、J・エドガー・フーバーに贈られた。

タナカ・ワークスがニュー・バリエーションとして発売する4インチ・モデルは、1957年のナンバリング制で「27」番を与えられたM27のベース・モデルだ。発売から第二次世界大戦で生産がストップするまでの総生産数6,624挺に対して、仕様を

制限して量産体制に入った後のM27を再現している。素材、外観、フィニッシュは、すでに発売されているM28に準じているが、ブレイムのブリッジ部分からフロント・サイトに繋がるサイト・リブの上面に、反射防止用のシャープなチェックリングが施されている。

すでに発売されている3.5インチ・バレルよりも0.5インチ、約12.7mm長いバレル。実測するとわずかな差だが、シルエットから受ける印象はかなり異なる。M27/3.5インチをコレクションしたファンは、是非4インチもコレクションに加え、イメージの違いを確認して欲しい。



GLOCK 17 Gen.5 MOS CO2GBB

GLOCK正規ライセンス取得のJASG公認CO2ガスブローバック

アンダーマウントレールのスリット部には「JASG認定CO2ガス銃」の証である1挺毎に異なるシリアルNoのレーザー刻印。



GLOCK 17 Gen.5 MOS CO2GBB

- 全長:205mm(※実測値)
- インナーバレル長:100mm
- 重量:699g(※実測値、12g CO2カートリッジ込)
- 弾数:24+1発
- パワーソース:「PUFF DINO」12g CO2カートリッジ
- 特徴:経済産業省認可の製造組合「JASG 日本エアスポーツガン振興協同組合」認定CO2ガスブローバック、可変HOP-UP搭載、3ヶ月ガス漏れ無償修理保証付
- 価格36,030円 ●大好評発売中!

フィールドでの遭遇率がめちゃ高かった噂のCO2GBBが、実銃メーカー正規ライセンスを取得しリニューアル!

GLOCKトイガンの日本正規ライセンスを取得! さらに同社監修によるリアルな外観と刻印を再現した「BATON Airsoft/GLOCK 17 Gen.5 MOS CO2GBB」が大ヒット発売中だ。2023年発売の前身モデル「BG-17 CO2GBB」はフィールドでの使用率=遭遇率がめちゃ高く「サバゲ三等兵」たちも大注目していたアイテムだった。独自内部機構により肉薄の樹脂スライドながらCO2GBB

の強烈ショックへの高耐久性を実現。ダットサイトを低く格好良く取り付けられるMOS(=モジュラー・オプティック・システム)も実装! と、元々が大ヒットの要素盛り盛りだったのに加え、今回晴れて実銃メーカー=GLOCKの正規ライセンスを取得した事によって外観や刻印がリアルになっただけでなく、合計19ヵ所もの改良&変更を実施し、さらに完成度が高まっている。

CO2ガスガンを安全かつ快適に使用する一番のコツは「必ずメーカー推奨のCO2カートリッジを選ぶ事」に尽きる。

●「PUFF DINO」CO2 12gカートリッジ(50本入) 価格4,400円

フィンガーチャンネルが廃されスッキリしたフォルムでマガジン挿入部がフレア状に拡がったGen5グリップ。ベースを延長せず12g CO2ポンペを収納可能としたマガジンも素晴らしい。装弾数は24発。

●GLOCK G17 CO2マガジン 価格7,480円(※別売)

CO2カートリッジをセットする際に六角レンチで締める底ネジはくれぐれも丁寧に扱うこと。GunsmithバトンのWebサイトや「X」で度々発信される注意喚起は必ずチェックしよう。



ショートトリコイルが再現され、スライドを引くとアウターバレルが僅かに上向く。特徴的なデュアルトリコイルSPシステムもリアル再現。



CO2GBBの作動速度=発射時のショックは凄まじいので、必ず「実銃にも対応可能なダットサイト」を選ぶべし! 主なダットサイトの規格に合わせた4種のアダプタープレートも付属。



スライドは樹脂製だが、通常時にMOS部分を覆っているプレートは金属製。細かい刻印やブルーマークがGLOCK公認でグッとリアルに。

トリガーセフティをさらに指で持ち上げるとトリガーが完全ロックされる独自のセフティ機構を採用。収納・保管・運搬時の安全性も高い。



可変HOP-UPの調整はスライドを外して行なうタイプ。



スライド作動の速さ! 手首に伝わるショック! CO2GBBの迫力はまさに異次元級! もちろん室温23°C、0.2g BB弾での平均初速は「77m/s=0.593J」なので、安心してゲームやシューティングに使える♪



GLOCK 正規ライセンス 8gカートリッジ採用によりリアルサイズマガジンを実現

コンパクトモデルの可能性を切り拓く

初採用 8g

19

【BATON airsoft】
GLOCK G19 Gen5 MOS CO2GBB
今秋発売予定!

なんと今秋にはG19も発売予定! 短い「CO2 8gカートリッジ」を新採用するという。



Militaria Roundup!

F-3A電熱式スーツと空軍将官用ジャケット

飛行機が与圧されていなかった当時、高高度における飛行任務で航空兵は厳しい寒さにさらされた。そこで考案されたのが電熱服で、飛行兵を-50℃の外気から護った。今回は第2次大戦中にアメリカ陸軍航空隊が開発したF-3A電熱式スーツと、希少なアイテムである空軍の将官用ジャケットを紹介しよう。

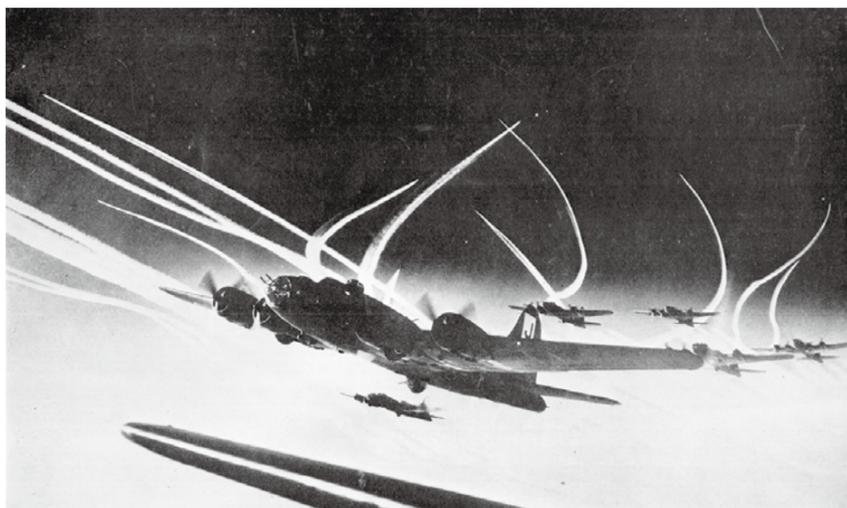
解説/菊月俊之 写真/青木健格

撮影協力/MASH 06-6567-3312 <http://www.mash-japan.co.jp>、中田商店 03-3823-8577 <https://www.nakatashoten.com>

航空用電熱服の開発

航空装備の電熱服が開発されたのは第1次大戦中(1914~17年)で、イギリス軍とフランス軍によって使用されている。1917年に参戦したアメリカ軍も高高度の寒さから航空兵を護る電熱服の存在に注目し、フランス軍が使用した電熱服を参考に開発を行なった。これはフランス軍の電熱服はイギリス軍のものより脱着しやすく、絶縁も良好で電熱線のショートによる火傷の恐れが少ないのが理由だった。フランス軍の電熱服は電熱線を張り付けたハーネスをオーバーオールに装着したもので、手袋、ブーツ、ヘルメット(飛行帽)を接続した。また電熱服には毛皮の内張りが施されていたが、これは電熱装置が作動しない場合の防寒が目的だった。

アメリカ陸軍ヨーロッパ派遣軍(American Expeditionary Force/AEF)は1917年10月に「ヨーロッパに派遣される航空兵に完全な航空装備を支給する」ように勧告。これを受けて陸軍は1918年8月に電熱服5000セットをエジソン電気器具社(Edison Electric Appliance Co.)に発注したが、11月に休戦が成立したことで戦争には間に合わなかった。当時の電熱服は温度調節ができず、高温になりすぎた場合は服のコンセントプラグを抜いて対処したが、18年9月にはエジソン社が加減抵抗器による温度調節の実験に成功。高度5000メートル、気温-21℃の環境下で10時間効力を発揮している。



ドイツ本土への爆撃に向かうB-17爆撃機の編隊。ヨーロッパ戦線のアメリカ陸軍航空隊は高度精密爆撃を実施したが、これは対空砲の被害を最小にするのが目的だった。このため作戦高度は7500m以上で、外気温は-50℃を下回った。爆撃機編隊の上に見える飛行機雲は護衛戦闘機の排気によるもの。(Photo:U.S.A.F)

改良される電熱式スーツ

第1次大戦で登場した電熱服だったが、当時の飛行機は電力供給能力に限られていた。このため戦後は飛行服の保温性向上に重点が置かれ、毛皮を使用した飛行服が開発されている。電熱服が再び注目されるのは1930年代後半で、39年にアメリカ陸軍航空軍団(USAAC/41年に陸軍航空隊に改編)が長距離高高度爆撃機ボーイングB-17を採用したことで開発がスタートする。そして41年4月にE-1とF-1の電熱式スーツが採用されたが、それは飛行服の下に着用する「下着」式のカバーオールで、E-1が12ボルト、F-1が24ボルトのバッテリー・システム対応となっていた。

しかしこれら電熱式スーツは電熱線が断線することが多く、温度制御の点でも信頼性に欠けていた(一か所の断線でスーツ全体の電源が失われる)。その欠点を解消するため1943年8月13日に採用されたのがF-2電熱式スーツで、前モデルのようにカバーオール式ではなく2ピースのユニフォームとしてデザインされていた。F-2スーツはインナーの電熱式ジャケット、電熱式トラウザーズ、そしてアウターのジャケットとトラウザーズから構成。インナーはウール製で電熱線もより柔軟なものに変更されている。

だがF-2スーツは-34℃まで快適に使用できたが着用感が悪く、通電していない状態で快適に着用できるのは0℃までと保温性が不十分だった。このため電熱式スーツの開発が続けられ、1944年2月19日にはF-3電熱式スーツが採用されることになる。

電熱服は機体のバッテリー・システムにより、使用できる枚数が制限されていた。このためB-17やB-24爆撃機では尾部銃座と球形銃塔の射手が優先され、機体が十分な電力を供給できる場合に限って側面銃座も電熱式スーツを着用できた。写真はB-17爆撃機の側面銃座で、同機は24ボルトのバッテリー・システムを使用していた。(Photo:U.S.A.F)



F-1 電熱式スーツ

F-1スーツは1941年4月4日に陸軍航空隊が採用した24ボルト対応の電熱式スーツで、冬期用の羊毛製飛行服の下に着用した。24ボルトのバッテリー・システムを搭載したB-17爆撃機のクルーによって着用され、その色から「ブルー・パニー(青ウサギ)」と俗称された。使用中に電熱線が断線することが多く、信頼性に問題があった。1943年における航空兵の凍傷は75%以上が電熱服の故障が原因だったという。(撮影協力:中田商店)



F-3A 電熱式スーツ TYPE F-3A ELECTRICALLY HEATED SUIT

F-3電熱式スーツはオハイオ州ライト・フィールドの飛行服開発部門(Flying Clothing Branch)が開発した電熱式スーツで、F-2電熱式スーツの後継として1944年2月19日に採用された。ボレロスタイルのジャケット(腰より丈の短いジャケット)とビブ(胸当て)の付いたオーバーオール式トラウザーズから成る2ピースのスーツで、これに電熱式のシュー・インサートとグローブで電熱服を構成した。シュー・インサートはF-2スーツ用に開発されたフェルト製だったが、44年10月31日には後継のQ-1インサートが採用される。

F-3スーツはウールのシャツとトラウザーズの上に着用し、スーツの上にB-10フライジャケットとA-9トラウザーズを着用した。電源は24ボルトのバッテリー・システム対応。-50℃で快適性を発揮した。F-3は並列配線システムにより、2つの回路のうちの1つが断線しても完全に熱が失われることはなかった。ここで紹介するF-3Aスーツは電熱式手袋とシュー・インサートの接続システムを変更した改良モデルで1944年10月21日に採用されている。



付属の使用説明書に掲載されたF-3電熱式スーツの着装状態。スーツは電熱式ジャケット、トラウザーズ、シュー・インサートから構成され、その上にアルパカの肉張り付き付いたB-10ジャケットとA-9トラウザーズを着用(円内)することで、気温-50℃にも対応できた。電熱服はあくまで航空装備で、飛行任務終了後は速やかに脱ぐものとされていた。



ラベル

ジャケット右前身頃に付けられた織りラベル。アイテム名表示から判るように「F-3」はスーツ上下に対する型式で、ジャケットとトラウザーズに型式は付いていない。ただし便宜上F-3の型式をジャケットとトラウザーズに付けて記述されることも多い。

CLASSIFICATION 13
JACKETS; FLYING ELECTRIC
(FOR TYPE F-3A SUIT)
SPECIFICATION NO. 3213-B
1 MEDIUM REGULAR (38 to 40)
STOCK NUMBER 8300-470879
P.O. NO. (33-038)-45-6935-AF
MEILMAN & MAGED
"Do Not Open Until Ready For Use"

TROUSERS; FLYING ELECTRIC
(FOR TYPE F-3A SUIT)
QUAN. 1
MEDIUM REGULAR (38 to 40)
STOCK NO. 8300-470879
SPECIFICATION NO. 3213-B
CONTRACT NO. W33-038-4243 (13218)
GENERAL ELECTRIC
MADE IN U.S.A.

紙ラベル

F-3スーツの箱に付属するジャケットとトラウザーズの紙ラベル。一番上に表示された「クラシフィケーション13」は陸軍航空隊における航空装備の区分。上下セパレート式にすることで、着用者のサイズ合わせがカバーオール式に比べてより容易になっている。スーツのサイズはS、M、L表示。



シンプルな裁断のジャケット背面。素材はコットンとレーヨン(ナイロンとする資料も)の混紡で、内側に電熱線が張られている。袖口のフリップ状のものは電熱式グローブとの連結用。



高高度飛行装備一式

付属の使用解説に掲載されたF-3スーツと、合わせて着装する高高度飛行装備一式を示した図版。内訳は①長い下着、②ソックス、③トラウザーズ、④ウールシャツ、⑤F-3トラウザーズ、⑥F-3ジャケット、⑦A-9トラウザーズ、⑧B-10ジャケット、⑨シュー・インサート、⑩フェルト製アウター・シューまたはA-6シューズ、⑪レーヨンまたはシルク製グローブ、⑫F-2電熱式グローブ、⑬A-9ミトン、⑭スカーフ、⑮ヘルメット(飛行帽)、⑯延長コード。ちなみに改良型のF-3Aスーツでは一部アイテムが変更されている。



Photo & Text by Takeo Ishii
東京マルイ ☎03-3605-1113
www.tokyo-marui.co.jp

MS Li-Po BATTERY

MARUI Safety Lithium-ion Polymer Battery

最も安全性の高い電動ガン用リチウムイオンポリマーバッテリー

「次世代電動MP5シリーズ」と「電動ガンPlusシリーズ」にそれぞれ3モデルずつが揃ったこのタイミングで、改めて東京マルイ純正の電動ガン用パワーソースである「MS-Li-Poバッテリー」と「ニッケル水素バッテリー」について。

ガスブローバック
FNファイブセブン 17,380円
P-90 Plusにベストマッチするサイドアーム。

電動ガン+プラス P-90 Plus 40,480円
「Li-Poバッテリーの時代」を見据えたスタンダード電動ガンへの電子回路FET搭載リニューアル計画＝電動ガン+（プラス）シリーズの第1弾。

次世代電動ガン
MP5SD6 72,380円
大口径&大容量インテグラル・サブレッサーがひと際存在感を放つ特殊部隊御用達のサブマシンガン。「SD」は「消音装置」を意味するドイツ語＝Schalldämpfer（シャルデンプファー）に由来。

左 / 7.4V 1500mAh MS・Li-Poバッテリー：スタンダードタイプ 8,580円
右上 / MS・Li-Poセーフティチャージャー 14,080円
右下 / MS・Li-Poバッテリーチェッカー 7,480円

MS・Li-Poバッテリーは2022年9月30日～10月2日、東京ビッグサイトで開催された「第60回 全日本模型ホビーショー」で初お披露目された。

「保護回路基板」搭載とMR30コネクタの採用で業界最高水準の安全性を実現!

内部に「保護回路基板」を搭載し、過充電・過放電の防止、温度センサー、短絡保護、0ボルト充電停止機能等の安全機能を備えたMS・Li-Poバッテリー（＝MARUI Safety Lithium-ion polymer Battery）。「専用チャージャー」「バッテリーチェッカー」「セーフティバッグ」といった周辺アイテムについてもそれぞれ最高クオリティの商品が揃っており、文字通り「業界最高水準の安全対策」が幾重にも講じられている。

それを如実に示す一例が定格電流30A MAXの「MR30コネクタ」の採用だ。他社

サードパーティ製の電動ガン用Li-Poバッテリーの場合、多くは本体から充電・管理用端子のコネクタと給電用コネクタの2つが出ています。そしてLi-Poバッテリーを使用する上で最大の懸念事項である「充電中の火災」の原因には、給電用コネクタに「Li-Po専用ではない（ニッケルカドミウム用あるいはニッケル水素用）充電器」を接続し無理やり充電しようとしたケースが多いらしい。

そもそも専用充電器以外は接続できない仕様のMS・Li-Poバッテリーなら、その手のミスはほぼ起こり得ないのだ。



MS・Li-Poセーフティチャージャーは「CHARGE（＝充電）」の他、「STOR（＝ストレージモードへの調整）」にも対応。作業中はセーフティバッグ（小）にバッテリーを収納し開口部を底にしてさらに（大）に収める事で、万が一発火事故が起こった際の延焼を防げる。

MS・Li-Poセーフティバッグ 8,580円



MS・Li-Poバッテリーにバッテリーチェッカーを接続すると現電圧が10秒間表示される。もう一度見たい場合は再接続すればOK。





月刊

THE GREEN BERET vol.60



SPECIAL FORCES CIF COMPANIES Part 8

文・イラスト/DJちゅう
写真/U.S.ARMY

特殊部隊CIF中隊特集パート8

祝！ 櫻坂46、9thシングル『自業自得』リリース！ 読者の皆さんも、もちろんへヒロテしてますよね!? こんにちは、グリーンベレーと櫻坂を愛する男、DJちゅうです。前回のCIF特集は、2010年代に活躍した3rd

SFG CIF中隊のアフリカでの活動と伝統的な任務であるPSDのお話& 装備解説。さらには映画『13時間』とCIFの小話などご紹介しました。パート7までは歴史を振り返り、1970年代から時代を追っていましたが、

ようやく現代に追いつきましたので、今月はCIF（現CTAC）関連で現在、最もホットな話題のユニット『Team Room Design』とスタイリングをご紹介しましょう。

参考文献 jackmurphywrites.com [SPECIAL FORCES TO DISBAND THE COMMANDERS-IN EXTREMIS-FORCE (CIF)], HIGHSIDE [Revenge on the CIF - How "The Haters" Cut Special Forces' Last Link To JSOC], SOF NEWS [Operation Gideon - Failed Attempt to Overthrow Venezuela Regime], Służby Ochrony Państwa [Zabezpieczenie wizyty Prezydenta Stanów Zjednoczonych przez SOP], QUARTZ [Fog foiled Trump's surprise trip to the DMZ, where the South Korean president was waiting], PRENSA LIBRE [Francotiradores y fuertes medidas de seguridad ante llegada de la vicepresidenta de EE.UU., Kamala Harris], NEWYORK TIMES [U.S. military's Africa Command wasn't equipped to deal with Benghazi], AUDACITY [Ex-Green Berets tried to recruit this vet for a failed coup. Now he's speaking out]





滑走路復旧訓練

日本へと侵攻を企てる敵勢力がまずやる事——。それは、日本国内にある航空基地の滑走路を攻撃することだ。これにより、空自は戦闘機を飛び立たせることが出来なり、日本の空を奪える。そこで、いかに迅速に滑走路を復旧させるかが重要となる。その役目を担うのが空自の建設会社たる航空施設隊だ。



那覇基地の一角にある滑走路を模した訓練施設。敵による攻撃を受け、滑走路の一部が破壊されたとの想定で訓練が行なわれた。南西航空施設隊の隊員たちが、早強コンクリートを流し込み、滑走路を復旧させる。

もし日本へ侵攻を企てる国があれば、まずは滑走路を破壊するだろう。左軍の航空機や艦艇を日本領空及び領海内に進出させたいが、戦闘機が領空を守っている、その任務はかなり困難であるからだ。同時並行的にレーダーや居住施設を含む各施設なども破壊していく。

ロシアによるウクライナ侵攻を見ても、初動で行なったのが、滑走路を含む航空基地への攻撃だった。

滑走路を破壊する手段として用いられるのが、弾道ミサイルや巡航ミサイルなどによる攻撃である。また、武装工作員を基地内へと進入させ、

爆破することも考えられる。敵が航空優勢を保っていれば、攻撃機や爆撃機による直接攻撃もあるかもしれない。どのような方法であれ“飛ばしたくても飛ばせない”状況に陥れない。

では1度でも攻撃を受けてしまったらもう手遅れなのか……。

実はそんなことはない。そうしたピンチに際し、力を発揮する「航空施設隊」がある。

航空施設隊は航空方面隊ごとに編成されている。この部隊の平時における任務は、基地や分屯基地内の補修や修繕など土木作業全般及びボイ

ラーや空調施設の点検等である。積雪寒冷地では滑走路や施設内の除雪といった任務もある。

今回取り上げるのは那覇基地で行なわれた「滑走路復旧訓練」だ。

主としてこの任務を行なったのは、南西航空施設隊である。同隊内にある作業隊が復旧作業を行なう。なお、今回は支援のため、陸自の第5施設団や第15旅団第15施設隊も参加した。

那覇基地には滑走路復旧訓練用の施設がある。そこには滑走路を模したコンクリートの広場があり、それを破壊するところから訓練はスタートする。